

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

美術館に縛られず、アートにすっかり浸ってみたいと思ったことはないだろうか？それなら、ぜひ越後妻有アートトリエンナーレを訪れてみてはいかがだろうか。十日町、津南町の周辺で3年ごとに開催される野外現代アートの祭典だ。その総面積は760平方キロメートルにも及ぶ！

この祭典では、自然界や公共空間にアートを持ち込むことで、アート、エコロジー、コミュニティの交わりを探究する。サイトスペシフィックなインスタレーションは、自然や地域社会と調和し、風景の一部となるように制作されている。田んぼや路地、家や空き家の外、公園や庭、そしてまつだい農舞台や越後妻有里山現代美術館（MonET）のような世界的な美術館でも作品を鑑賞することができる。

2000年に大地の芸術祭が開催されて以来、約200の常設作品が設置され、年間を通して鑑賞することができる。芸術祭期間中はさらに仮設作品が追加され、十日町は没入型芸術のワンダーランドと化す。

ホンヤラドウ

このイグルーのような雪の小屋は「ホンヤラドウ」と呼ばれる。十日町の冬のイベント「鳥追い」の一環として建てられる。

伝統的に1月14日の夜に行われる鳥追いは、十日町の農業の伝統の一部である。子供たちが集落を練り歩き、大きな声で拍子木を叩き、鳥追唄を歌って農作物を食い荒らす鳥を追い払う。住民たちはその労をねぎらい、餅やお菓子を与える。その後、子供たちはホンヤラドウに集まり、炭火コンロで餅を焼き、収穫した食べ物を夜遅くまで分け合いながら、雪景色と友人たちとの時間を楽しむ。

冬の北日本を訪れたことがあるなら、「かまくら」と呼ばれるホンヤラドウに似ているような建造物を見たことがあるかもしれない。十日町の「かまくら」の名は、鳥追唄に由来しているようだ。鳥追唄は、鳥を追い払うかけ声を「ほんやら」という擬音語で表現したものである。

河岸段丘

ここは信濃川流域である。川から離れるにつれて土地の標高は上がっていくが、階段状に盛り上がっているのも見えるだろうか。この平坦な地形は人工的なものと思われるかもしれないが、実は「河岸段丘」と呼ばれる自然の地形なのだ。約1万年以上前に人々がこの地に魅了された理由のひとつだ。

十日町は大きな断層に沿って位置している。二つの地殻プレートが周期的に押し合い、土地が紙のように押しつぶされた。河岸段丘が形成され始めたのは、約40万年前、隆起した土地に川が流れ

込んで水路ができたときである。さらに地殻変動は河川流域を隆起させ続け、水は常に低地に流れるため、河川は流路を変えた。その結果、古い棚を残して新しい川底が侵食された。このプロセスが数千年の間に何度も繰り返され、今日の段丘が形成されたのである。

そして、そのおかげで人類がこの地に定住し農業を営むのに必要な平坦な土地ができたのだ。今日でも、平坦な土地には水田や住宅が広がり、高い斜面には鬱蒼とした森林が残っている。これは、日本に残る河岸段丘の最も保存状態の良い例のひとつである。

松之山の温泉

日本は温泉大国で、断層や火山がたくさんあり、温泉が湧き出している。泉質はそれぞれ異なるが、十日町の山あいにある歴史のあるリゾート地、松之山温泉のように珍しいものもある。

松之山温泉は「日本三大薬湯」のひとつに数えられ、14世紀から湯治客が癒しとくつろぎを求めて訪れていた。松之山の温泉は多様なミネラルを含んでいることで知られている。日本の法律では、19種類のミネラルのうち1種類でも含有量が多ければ温泉として認められる。松之山温泉の泉質は、これらのミネラルのうち8つの基準値を満たしており、その中には日本で最も高いレベルの抗真菌・抗菌作用のあるホウ酸も含まれている。

水中のミネラルは、人間の細胞内よりもはるかに濃縮されている。そのため、単純浸透圧が体内への吸収を助けるのだ。日本には「温泉はどんな病気も癒すが、傷ついた心は癒さない」という言い回しがあるのだが、松之山でそれを試してみたいだろうか！

酒造り

新潟には他のどの県よりも多くの酒蔵があることをご存知だろうか。それは、雪解け水の軟水、豊富な米、そして酒造りに適した寒くて長い冬という、酒造りに重要な3つの要素が揃っているからだ。

水が重要なのは、日本酒の体積の約80%を占め、製造工程のほぼすべての工程で使用されるからだ。日本酒はどんなきれいな水でも造ることができるが、軟水（溶存ミネラルの少ない水）は柔らかく丸みのある風味を与えていると言われている。米も重要な原料だ。日照時間が長く、平均気温が24.5度前後で、昼夜の寒暖差が大きい新潟の夏は、米作りに理想的な環境だ。加えて、雪の多い冬の安定した寒さは、安定した醸造条件を提供し、農閑期の労働力を補う。

十日町には2つの歴史ある酒蔵、1896年創業の松乃井酒造と1873年創業の魚沼酒造がある。新潟の日本酒探訪を、そこで始めてみたいだろうか！